

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第1回加東市教育振興基本計画策定委員会
開催日時	平成27年7月1日(水) 14時00分から15時47分まで
開催場所	社福祉センター 2階 レクリエーション室
<p>議長の氏名 (委員長 大島巧男)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><b>【出席委員】</b> 13人</p> <p>吉川芳則委員 大島巧男委員 浅川るり委員 土肥貴雄委員 松岡博文委員          眞海秀成委員 安原一樹委員 竹内守男委員 上月嘉和委員 南中輝代委員          安田誠委員 石田れい子委員 服部雅幸委員</p> <p><b>【欠席委員】</b> 0人</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>なし</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造          教育部長 堀内千稔</p> <p>教育総務課 課長 大橋博英          同 副課長 中西 互          同 副課長 柴崎俊之          同 主幹 山本幸平</p> <p>学校給食センター 所長 山田修詩          学校教育課 課長 登 光広          生涯学習課 課長 黒崎徳弘          人権教育課 課長 広西英二          中央図書館 館長 大橋正明</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>議題等</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 委員長、副委員長の選出について</li> <li>(2) 加東市教育振興基本計画の策定について</li> <li>(3) 検討スケジュール(案)について</li> <li>(4) 加東市の教育の現状と課題</li> <li>(5) 全般的な意見交換</li> </ol>	

## 【会議結果】

- (1) 委員長に大島巧男委員、副委員長に上月嘉和委員を選出しました。
- (2) ・ (3) 資料2に基づき、事務局から説明を行いました。
- (4) ・ (5) 資料3～5に基づき、審議しました。

## 【会議の経過】

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

### 3 委員委嘱

### 4 自己紹介

### 5 設置要綱等の説明

事務局から資料1に基づき、説明を行いました。質疑なし。

### 6 役員選出（委員長、副委員長の選出）

委員長に大島委員、副委員長に上月委員を選出

### 7 委員長・副委員長あいさつ

### 8 議題

- (1) 加東市教育振興基本計画の策定について
- (2) 検討スケジュール（案）について

資料2に基づき、事務局から説明を行いました。質疑なし。

### (3) 加東市の教育の現状と課題

### (4) 全般的な意見交換

資料3～5に基づき、審議しました。

### (委員長)

2ページに小学校児童数の推移があるが、このグラフを見たら100人を切るという現状の学校があるし、今後、近い将来100人を切る学校を見るんじゃないかと危惧をされるわけですが、このあたりの把握についてはどのようにされていますか。

### (事務局)

15年前、平成11年のデータ、それと今年度と今後6年後でどうなるかというところで、まず、6割減の学校は、福田小学校、15年前、269名いたのが6年後には99名になります。現在は、ちなみに103名です。269名が103名に落ちています。

米田小学校は、半減です。15年前が107名で、現在51名です。6年後も50というような数字で試算はしています。

4割減の学校は、三草小学校です。15年前は143名、現在は88名、6年後同じそれぐらいの数ということです。

東条西も15年前231名いたのが現在96名、もう100を切りました。6年後にはより一層減り、63名という試算になっています。

滝野南、滝野東については少し増加しているのですが、15年前に比べると横ばいになり、ピークが過ぎたかなというようなところではあります。

今申しましたように、極端に減っているというのがよくわかります。それに伴って、授業の中で、学び合うとかいうような機会は当然少なくなっており、そういったところを高めるような、意図的に機会をつくるような学習活動を組んでいかなければいけないというのは、やはり喫緊の課題となっています。

(委員長)

加東市の子どもたちの確かな学力、4ページですね。全国学力調査の結果、加東市の子どもたちの現状はいかがでしょうか。スポーツ運動能力につきましても。

(事務局)

小学校では、基本的に全国レベルと大きな差はないというふうに考えていますが、実はその中でも少し課題になっているところは自尊心という、自分自身が好きかどうかということなんです。そういった部分とか、家庭学習の定着ということについて少し問題がある。それから点数を平均化しますが、ふたこぶラクダと言いますか、ちょっとわかりにくいですが、放物線ではなく、成績のいい子どもの層と若干遅れる層の2つのこぶができてしまうというふうな傾向も一方であります。

しかし、一概にして全てがだめということではなく、基本的にはそれは周りの中との平均値の中に入っているということになります。中学校も同じような傾向にあるということです。

それから、体力的なことですが、やや劣るというふうな項目が多いということが少し気になりまして、さらに基本的な運動についても、学校あるいは地域、家庭の中で進めていきたいなということを思ったりもします。その中で、特に運動についても、家庭で運動を進めようという家庭の子どもたちはやっぱり運動能力が高い。学力等についても「早寝、早起き、朝ごはん」ということもありますけども、そういう基本的な生活習慣がきちっと整っている子どもたちのほうが学力はやはり高いというふうな結果もあるので、決して学校での学習だけでなく、家庭の中での、あるいは地域の中での生活ということと一緒に考えて子どもたちの力をつけていく必要があるというふうなことを考えています。

(委員)

学力状況調査の結果は、26年度の結果だけの現象なのか、恒常的に毎年毎年似たような傾向、例えば自尊心の課題があるということの中で、毎年のようにそこに課題があるのか、そういう点はいかがでしょう。ふたこぶラクダも、毎年ふたこぶラクダの傾向なのか、1年だけのことだったのか、その辺はどんな感じですか。

(事務局)

小学校と中学校とに分けると、中学校の自尊感情が低いということはしばらく傾向としてはあります。小学校でも、同じようなことも言えるということなので、それをどういうふうに子どもたちが捉えているのかというふうな捉え方の問題もあろうかと思いますが、加東市としては考えていけない課題であろうかというふうに思っています。

ふたこぶラクダの件は、やっぱりその傾向があるということは否めない事実だというふうに思っています。

(委員)

学力向上について、基本的生活習慣が大事ということですが、例えば学校のほうでは基本的生活習慣がなされていない子どもの把握はしてると思う。そういう子どもとの家庭のつながりとかコミュニケーションは、どのようにされていますか。

(委員)

小学校ですが、それぞれの項目があるが、家庭での様子についてアンケートをとって、こういう面がまだ不十分だなということは正常な方向へ少しずつ上げていっています。まだ十分とは言えないという状況です。

(委員)

ちょっと気になるのは、例えば何回言ってもだめなんですという言葉の時として聞くことがあるが、私たち、子どもを持つ親としては、もう一步進んでほしいなと思うことも多々あるので、何回言ってもだめなんですで終わらせてほしくないなということの願いはあります。

(委員)

実は、そのアンケートだけで終わってしまうとだめなんですよね。その後が大事で、担任から常に連絡帳のやりとり、簡単に言えばお手紙のやりとりと思ってもらったらいいのですが、ここが頑張っていたよ、よくできていたよというのから、ずっと広げていって、いろんな習慣についての進捗状況、全部だめじゃなくて少しずつ頑張ってきてますよ、ここは今日はできてましたね、でもまだこの部分頑張りましょうねという形で、子どもとのやりとり、それから保護者とのやりとり、おうちの人の御意見も聞きながらしているところなんですけども。

(委員)

中学校になると、なかなか子どもも難しい時期になります。とはいえ、やはり生活習慣の乱れについては個々の生徒と教師とのやりとりの中で改善していく、子どもはそうしないとなかなか押しつけではいけないので、子どもがやっぱりいい方向に進めるような粘り強い相談というか、そういうことをしています。

一方では、親御さんをお願いすることも多くあります。ところが、やはり家庭も様々で、それは家庭がこういう方針でやってるからと言われる家庭もあります。それはいい意味ではなくてね。していただきたいということでお願いしても、いや、うちはこういう方針でやっている、意図を組んでいただけない家庭も現実にはあります。

しかしながら、今言ったように子どもの改善を家庭の協力を得ながら進めていくというのは、今やっているところです。

(委員)

社会環境の変化ということで、現状、世界の状況から考えると、特にグローバル化の進展に伴ってというあたり、もちろん加東市において、これにふさわしい人材を育てていく、そういう方向性を持って教育されておるといふふうに思うが、ちょっとこ

ここに書いてあるのだけを見たら、もうひとつわからないので、具体的にどういうふうな取組みを、ひとつの取組みをしているということは現実あるかもしれないですが、そうでなく、加東市全体として将来の人材をどう育てるかという観点からどういう取組みをされておるのか、そのあたりのところを教えていただきたいというふうに思います。

(事務局)

加東市の総合計画の中でもうたっているんですが、基本的には人間力の育成ということで、ただ、学齢期においてどういった力をつけるかとかということになるんですが、自立した子どもたちをつくるということで、自立をキーワードにしています。

その人間力の中に、第1期の基本計画の中で、例えば自立とか思いやりとかが学齢期の子どもたちの目指す部分になります。具体的には、第1期の教育振興基本計画の15ページのところになります。

第3章の加東市の今後の教育ということで、総論でここに書いてある(1)子どもにかかわる人間力、ここが普遍的なところかなと考えて基本計画に入れておりますし、今度、第2次の基本計画にも当然ここは反映されてくるところです。

先ほど申しましたように、人間力の育成というのがキーワードになっており、その中で、まず、児童・生徒に係る人間力とはということで、人間力の規定をしています。1つ目に基礎学力、思考力、あと、他人とのかかわりにおいて、思いやり、命を大切にするという人間性の部分、あと体力、精神力、個性、さらにその基盤にある、ここは特に事務局で重視しておりますのが意欲、粘り強さというところです。少子化が進んでいるということで、なかなか切磋琢磨する機会が減っています。当然、学校のほうでもクラスに子どもが少なくなっているところもあります。キーワードとしては、人間力のために今、意欲とか、粘り強さというところを力を入れてやっています。

(委員)

先ほど聞いた件に関してですけど、それは一般的な能力として思考力であるとか、判断力であるとか、想像力とかですね、そういうようなものは国際社会で異文化の人間とやっていくときに当然、力となる。加東市といえども、やっぱりここを卒業してそういう場に臨んでいく子どもは確実に育てているわけですね。今、教育するのは必ずしも、目の前におる生徒、子どもだけを対象にするわけではなく、この人たちがやっぱり20年、30年後に活躍できるように、その基礎を育てるのが今の状況。そういったことを考えると、大きく世界状況が変わっておるということは、即イコール我々の現状においても必要になってくるということが言える。

理数教育、それ自体を見た場合は加東市には、直、関係ないような感じがするかもしれないけれども、しかしながら、いずれは経済が場合によっては下がるかもしれない、そういう時代にあって、時代をリードしてくれる人材が育つかもしいないという期待のもとにする、そういうようなものをやっぱり、加東市の中にも今後取り入れていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

英語学習に関しては結構いろんなことをされておるんですね。それ以外もまだあるように思うんですけども。子どもがどんどん減っているし、人口が減っている中でこの地域をどういうふうに今後に向けて活性化させるか、そのときに重荷が解ける人材をどう育てるか、これは小学校だけではだめであるし、中学校だけでもだめであるし、その場合に高等学校であり、大学であり、そういうところへの連携も含めて、今後そういう視点が必要じゃないかなというようなことは思うんですけどね。

(委員長)

我々が、2回目、3回目、どんどん素案をつくっていく中で、今の委員の御意見も十分に踏まえた、また新しい方向性が生まれればありがたいと思います。

(委員)

開かれた学校というのは、どういうふうに進めているのか、今の現状で。

(委員)

まさしく、開く、オープンにするという形で、学校ではそういう来ていただく機会が多くとっています。保護者あるいは地域の方にどうぞ学校の様子、子どもの様子を見てくださいという、学校オープンというのを、オープンスクールと言うが、そういったものを何回かしています。

あと、情報発信ですね。地区のほうで回覧の形で学校の様子をお知らせするという取り組みをしています。それは学校だよりだけでなく、生徒指導通信とか、あるいはホームページ上には学校だより、生徒指導通信、保健だよりとか、あと、交通安全指導だより、そういったもろもろのものをオープン化して地域の方に見ていただく、そういうこともしています。

(委員)

小学校は、授業を見ていただく機会、オープンにしている日を設定してきていただくというのと、それからいろんな行事を持っています。地域の人にお願ひして、例えば田植えとか、稲刈りとか、保育園の園児の方とそれから生涯大学、一緒に校庭に集まって、手をつないで田んぼまで行って指導を受けて、一緒に手をつないで帰ってくるとか、そういう形で地域の方と一緒にいろんな行事をする。

あと、先ほど出ておりますけれども、情報発信ですが、いろんな行事、教室なんかをホームページに出したり、学校だよりについてはホームページに載せたり、あるいは回覧、学校によっては全戸配布しているところもあります。学校の様子を見ていただいて、また、御意見を頂戴したりしているようなところです。

小学校では、少し小学校によって多少取り組みの様子は違うところもありますが、地域の方と一緒に職員も1日とか、15日に、登下校の様子を見て、それをもとに現場で指導したり、あるいはその情報を得て皆に相談して、指導したりしてるのがほとんどです。

(委員)

5ページの豊かな人間性の育成というところで、今、小学校のことが出ましたけど、(2)の環境体験事業のマンネリ化させることなくということとか、地域の実態に応じていろんなことが対応しますよということ。5年生になると自然学校、3年生で特に環境体験学習を1日取り入れてやるとか、その辺のことをお聞きしたい。

私も、うれしの生涯大学に行っており、小学校に巻きずしづくりのときに行かせていただいたときも、児童数が非常に少ないなと思っておりましてし、そのようなことを通して子どもたちが、自然とか、体験とか通して育成するというのは非常に大事なところなんで、その辺のところをお聞きしたいと思います。

(事務局)

体験を通して学ぶというのは当然、自立につながるということは皆さん御承知のとおりでございます。特に、3年生の段階で環境体験事業、これは県の補助金事業で全校で実施しているわけですが、当然その中に先ほどお話がありました地域の方々の協力を得て、開かれた学校にというのも含みますし、地域の教育力を活用した学校の特色ある教育活動にもつながるわけで、先ほど言いました地域の自然環境を使って環境体験事業ですから、県とか市教委がお話してますのは、五感を使ってフルに体験をす

る、その中で人とのかかわりの体験をつけることによって、体験不足の、昨今の子どもたちに生の体験を通した知識・理解とか感覚とかを養うということでやっています。

それぞれ各学校では非常に特色あるようなことをされています。当然、地域の環境等を活用すれば、独自の環境体験事業が行われることになります。

(委員)

やしろの森公園があり、そこの理事長さんともいろいろ、やりとりしながら自然環境、人との環境、両面からいろいろと御相談しながら子どもたちが実際にその森の様子を見に行ったり、田植えして、稲刈りをするんですけど、四季を通じて、1回だけでなくずっと1年間、特に春、夏、秋の3シーズンですね、実際に現場へ行って様子を見ながら、そういう取組みをしています。

ほかの学校でも幾らかの補助金が出ていて、いもをつくったり、それから大豆をつくったり、ある学校では、ある会社に申し込んでミニトマトの苗をいただいてつくっているところもあります。

(委員)

今の高齢者は、年寄りと言っても随分と元気で、暇な時間をもてあます人たちがいる。そういうような中で、そういう高齢者を加東市もいろんな輪に引き出して頑張ってもらおう。そのような動きがあると思うが、そういう施策に関してはここでは対象としないのですか。

例えば登録していて、小学校のほうへ頼まれれば出て行って、高齢者であっても働けるような場を育てていくような、そういうふうなものがあったらいいんじゃないかなというようなことを思います。

(委員)

その点ですが、より積極的なものを、高齢者活動というのを、ぜひ議題の中に入れていただければありがたいと思います。今後のこと考えると、日本全体というか、そういう部分を含めて高齢者の人材化というのを検討していただければありがたい。実際に、いなみ野学園などは、学んだ後、何かしてと言われてもそのやり方を提示していないという声をお聞きするんですね。地域活動の方法論をそこで学んで、かなり長期に学んで、またもう一回入り直して。ずっと学ぶのは悪いことではないですけどね。本来の趣旨からいうと、活用策をもうちょっと提示して、ある程度やっておられる方々もおられんですけども、もっと市行政がバックアップするシステムがあれば、変わるんじゃないかなと思う。学ぶ機会を増やすことは重要なんですが、その後の仕組みを少し工夫してつくっていくことが重要なのかなという、こういう計画に盛り込んでいくことは、思います。

(委員)

食育に関して、学校給食における取り組み方で地産地消という言葉が出ていますが、今現在、どの程度の地産地消というものを活用されているかお聞きしたい。

(事務局)

地産地消については、26年度のデータで、全野菜の消費量の12.9%の消費量です。

(委員)

その12.9%というのは、加東市において、望んでいた数字ですか。それよりも低いんでしょうか、

(事務局)

野菜については、やはり生産農家から全量、給食に必要な野菜を全量確保するというのが非常に難しいというようなことがあり、今の実績というようなことになっています。給食については、約3,400食を提供しているというような現状で、全量の野菜を地産地消、地元の野菜で賄うというのは実質的には不可能なことで、パーセンテージはそういうような現状です。それから御飯、お米に関しましては、全量加東市産です。

(委員)

今、食育の話が出たので、感想を兼ねて言いますが、やはり食育は大事だと思います。学習の向上、体力の向上ともにやっぱり体をつくっておかないとできないので。今よく聞く話の中にロールケーキとか、バナナとか牛乳とか、親が簡単に与えてしまうというような話も聞きますので、朝御飯、「早寝早起き朝ごはん」というスローガンがありますけれども、本当に基礎の食育をきちんとして、その上で学力と体力をつけていったらますます理想的な人間育成になるんじゃないかと。事務局が規則正しい生活ですか、しっかりしている家庭が学力も体力も伸びるというようなことをおっしゃいましたが、今、核家族で、本当に好きなように食べさせて、好きな、自分が楽なようにというような傾向が多いと思うので、そういう基礎的な部分もしっかりと取り組んでいただきたいなと思います。

(委員長)

今後の教育振興の基本計画の中に食育ということについてもしっかりと触れたいと思います。

(事務局)

食育も当然第1期の基本計画では位置づけており、その計画に基づいて平成21年度から30年度まで10年間で各学校を食育推進校として指定をして取り組んでいきます。今年度については、滝野東小学校と滝野中学校。年間2校ずつを指定していくということで、大体各学校で指定が終わり、委員がお話しされていた食の大切さというところ、特色ある取り組みとしては、オープンの際に保護者を巻き込んだ、例えばクッキング教室であるとか、講演会をして、食べるだけではなくてこういった効果があるというような、食で育むんだというような意識を、啓発を保護者を含めてしているというのは各学校の取り組みです。各学校では本当に特色を生かしてやっていただいています。目に見えて効果は上がらないかもわかりませんが、後、響かない保護者にどうやっていくかというのが今後の課題なのかなと思っています。

(委員)

保護者も大事なんですけど、教師もだめなんですよ。だめというか、教師のだらしなさというか。それを変えるために、食育のあり方、理念だとか、理想とか、そういうこともきちっと教えて教師になってもらうということ、そこをやっぱり教育委員会の研修とかでやらないと、教師がだらしないんだから、いくら言ってもね。本当に実態調べてください。ひどいですよ、教師の食生活。そこを是非。思っているほど、きちっとしてないですよ。

(事務局)

教員の資質能力の向上の中に食育も位置づけさせていただいて、取り組みたいと思います。

(委員長)

学齢期の子どもの学校で読書指導をたくさんしていただくけれども、社会教育の部



分で、加東市の図書館利用率が4万人の人口のナンバーワンだと聞いています。このごろちょっとそれが減りつつあるという現状ですが、どうですか。大人のいわゆる読書、あるいは図書館の利用は減っていますか。

(事務局)

やはり利用者数、貸出者、数パーセントですけれども、前年度から非常に減っているような状況になっています。こういった面ですらやはり人口的なものか、今ネット社会ということで、そういった部分があるのかもわからないのですが、ただ、学校の社会教育ということで学校と提携させていただいて、お出かけ図書館というようなことで、各学校3年生を対象に、一部1年生の学年がありますけれども、まず図書館へ来ていただいて、図書館の役割、そういったものを説明させていただいた後、図書館カードをつくっており、本を借りていただくというような形で、そういった活動も一緒に進めさせていただいています。

そういった中で、やはり現状で、増やすというのはかなり難しいのかなというふうなことも一つあり、できるだけやはり小さい子どものときから利用していただけないようなことを進めていきたいと、活動ですけれども、引き続き行っていきたいというふうに考えています。

(委員長)

今回の新しい教育振興基本計画の中にも、いわゆる大人の読書、図書館の利用についてもまた触れたいという思いを今、しています。

(委員)

加東の教育の最終のページですが、加東市の一貫教育というので、保護者説明会の資料ということになっていますけれども、まず、そのときの現状、どうだったかというのを。

(事務局)

この小中一貫教育については、昨年12月以降、大人向けの市民説明会を開催した後、その後1月の中ごろから各学校を回らせていただいて、保護者説明会ということで、この資料に基づいて説明をさせていただきました。

保護者説明会の中では、小中一貫教育自体への明らかな反対、何が何でも反対という意見はあまりありませんでした。むしろ不安感はあるというふうなお話が結構あり、例えば通学手段はどうなるんでしょうかとか、制服はどうなるんでしょうかとか、大きな中学生と一緒に小学生がいて大丈夫なんでしょうかとか、いろんな不安のお話はありましたが、何が何でも反対というふうな雰囲気ではなかったように思います。むしろ、そういった疑問点を解消するためにもっと説明会してほしいというふうな、そういう雰囲気でした。

(委員)

P.T.Aの保護者全体の声というのは、現実には、集約できていません。その中で、私として感じますのは、親御さんは子どもにやはり確かな学力をつけてほしい、その手段がどうのこうのというのは、実際小さな子どもを子育てしている親として、そこまではちょっとまだ考えられない、想像もできない。ただ、子どもには確かな学力をつけたいんだというふうな思いが強いように感じます。別に子どもは学校の形とか、箱物を見て入るわけじゃないから、きっちり教えてもらえたらいいんだという話を聞いたりします。

生きる力とか、激しい時代の中で自殺も現実、健康課のほうからもありましたけども、加東市、自殺でもナンバーワンとかいうようなこともあったりしますので、大人

で一生を終えるまで、生きる力をつけないといけないのかなということの子を持つ親として感じるわけなんですけれども、そんなときに本当に少人数であれば、よりきめ細かな学習ができてというようなところも一方ではあるが、総じて親御さんはそこそこの集団の中で教育を受けることを望まれるのかなというのを最近感じます。

(委員長)

この小中一貫教育についても、今回の新しい基本計画、今後5年の計画ですので、触れないわけにはいかないと私は考えています。そこで、明日視察に行っていて、その後研究会をまた再度2回目を開いていただくということの計画だと聞いています。その辺も踏まえながら、この次の教育基本計画には小中一貫教育についての推進をどういうふうにしていくのかということも網羅していけたらと考えています。

(委員)

最近思うのは、どのようにして生き抜いていくのかというところで、やはり私も若いころはあまり健康ということは意識しなかったんですけれども、意見出ていましたように、本当に一生健康で暮らして生きていくために生涯教育とか、生涯学習とかいうことを、提供を受けた教室とかで自分はそこで参加して、自分のためにというものもあるんですけれども、やはり社会のために、地域のために、みんなが地域の活力とか、そんな感じで、やっぱり本当に生きる力を、生き抜く力を本当につけるような学校であったり、地域であったり、本当の真の連携と言いますか、そういうところが望まれる、ここにも、課題のどこにもありますように望まれるかなというふうに最近思います。

## (5) その他

(事務局)

次回の日程ですが、また、各委員様に御都合等を聞きながら調整して決めさせていただくというようなことでお願いしたいと思います。

## 9 閉 会

### 【資料名】

- 資料1 加東市教育振興基本計画策定委員会設置要綱
- 資料2 第2期「加東市教育振興基本計画」の策定について
- 資料3 加東市の教育の現状と課題（総括）
- 資料4 加東市教育振興基本計画 【平成23年3月】（第1期）
- 資料5 平成27年度 加東の教育 かとう夢プラン
- 資料6 加東市総合計画（後期基本計画）H25～H29
- 資料7 第2期教育振興基本計画 第1部 総論 概要、第2部 各論 概要  
(H25～H29)【国】
- 資料8 第2期「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」概要  
(H26～H30)【兵庫県】

平成27年8月31日

委員長 大島 巧 男